第３１回　軽井沢２２世紀風土フォーラム基本会議

【日　時】　令和４年１１月２８日（月）　１９：００～２１：１０
【場　所】　オンライン形式による開催（新型コロナ感染防止措置のため）
【出席者】　基本会議委員：石山武委員、稲葉俊郎委員、金山のぞみ委員、
鈴木幹一委員、袖山尚委員、福原未来委員、
丸橋昌太郎委員、鹿ノ戸彩委員、小出恵委員、
三島勇委員

内　容

１．開　会

【会長】

お忙しい時間であるがご出席いただき感謝する。基本会議も対面開催に戻したいと思っているが、コロナウイルス感染拡大状況を鑑み、本日もオンライン対応とさせていただいた。

前回会議以降の流れとしては、プロジェクトチーム（以下「ＰＴ」）を立ち上げ、芸術祭開催へ向けた計画を進めていただいているところであり、ＰＴメンバーの皆様に感謝申し上げる。本日の議題の１つ目は、ＰＴ座長からの情報共有であり、２つ目としては、芸術祭の流れと並行して今期のテーマである「軽井沢ブランドの持続と進化」について、風土フォーラムとしてどのように具体化していくかということについて話をしたい。本日の議事進行については、ファシリテーターの【Ａ委員】にお願いしたい。

【Ａ委員】（ファシリテーター）

皆様のお手元に事務局から本日の会議の次第が送られていると思うので、それに沿って進めたい。１点目の議題として、「芸術による新たなブランドを創造するプロジェクトチーム（報告等）」とあるので、ＰＴ座長よりご報告をいただ

きたい。

２．議　事

⑴芸術による新たなブランドを創造するプロジェクトチーム（報告等）

【Ｂ委員】（ＰＴ座長）

このたび私が座長という形でＰＴを運営していくこととなったのでよろしくお願いしたい。今回、「軽井沢の未来をつくる一助に」との思いから公募で委員として風土フォーラムに参加できたことだけでも光栄であったが、さらにはＰＴ座長という役割をいただき、ドキドキしているところであるが、ぜひ皆様のお力も借りながら進めたい。まずは資料の共有をしたい。

≪画面共有にて各委員へ説明のための資料が映し出される≫

【Ｂ委員】（ＰＴ座長）

共有した資料は企画書ということで、イベントを開催するにあたって、その概要を説明するツールである。

資料の表紙について、「事業 企画・実施」というところの記載が重要になると思っており、軽井沢２２世紀風土フォーラムがこの事業の主体であり、その中のＰＴが運営しているという形で、「協働」の欄に記載している「ざわーず」については後ほど説明するが、住民の方々と一緒にやっていきたいという意図で記載した。

２ページ目には、基本会議委員の皆様はご承知のことかと思うが、２２世紀風土フォーラムについて改めて記載している。軽井沢の未来を見据えて組織化され、様々な活動を行っているということを住民の方々にも知って貰いたいということで記載した。

３ページ目には、なぜ芸術祭という形をとったか、ということを改めて記載したものである。第３期の基本会議で「未来宣言」として言葉にされているが、その内容を掻い摘んだ記載となっている。「未来宣言」では５つのテーマを掲げら

れている。補足をすると、私自身移住者であるが、軽井沢に起きている変化がきっかけとなって、「歴史を知りたい」とか「軽井沢について勉強不足かな」などの思いから軽井沢検定を受けている。他にも私と同じような方がいて、軽井沢の変化が「軽井沢についてもっと知りたい」というきっかけになっているのかなと感じている。何が言いたいかと言うと、「未来宣言」で打ち出されている５つのテーマが、軽井沢の暮らしの中で、何を意識してどのように軽井沢の未来を見据えていくのか、ということをまさに具体化しているものである、ということであり、これがとても腑に落ちている。誰しもが参加しやすい芸術祭という形を実現させることで、大事な５つのテーマを軽井沢のブランドとして築き上げるようにする、そのような場にするべきではないかと考えた。

４ページ目に移るが、芸術祭をどのような手段で実施していくかを考える中でＰＴが立ち上がったわけであるが、「芸術による新たな軽井沢ブランドを創造するプロジェクトチーム（仮称）」という仮の名前をつけた。また立ち上げの経緯を並べて記載している。掲載している図は、全国様々な地方の芸術祭を分類して配置した図であり、右に振れるほど「美術をどのように街中に発信するか」という色が強くなり、左に振れるほど「まちづくり・地域活性化をどのように盛り上げられるか」という色が強くなっている。上下方向については上に振れるほど「住民主体」「アーティスト主体」の色が強くなり、下に振れるほど「地方自治体主体」の色が強くなるようなイメージである。この図の考え方を参考に、今回我々が行うべき企画のポイントはどこにあたるだろうかということをＰＴ内で考えた。「アートをやりたい」ということではないため、左に振れるのではないかと考えた。主体も「町がやる」のではなく「住民がやる」「自分事として動きたい」という意図で上側に振れた部分であると考える。これらの考えに最も近かったのが葉山芸術祭で、分かりやすいように図の中では破線で囲んでいる。この葉山芸術祭は各主催者の日程に合わせていろんなイベントが同時多発的に起こることを芸術祭としていて、それを町として発信している芸術祭であり、このようなことが軽井沢で出来ればワクワクしそうだということで１つ目標とした。

５ページであるが、「なぜ芸術なのか」「なぜアートなのか」ということを簡単に説明する資料である。文化施設の歴史的背景としては、芸術祭やアートフェスティバルといったものが 1990 年代にホールや美術館などの、いわゆるハコモノ

と言われるような文化施設がどんどん建っていくなかで広まっていった流れがあった。それが 2000 年代になってから、芸術祭に対して多様な立場の人たちが登場し始め、地元の地域や社会に作用するものに移行していく流れが出てきた。そんな状況の中で地域のまちづくりのプロデューサー的な立場の人が芸術祭のディレクターになったりすることも増えてきた。今回の企画では、芸術を媒体として「住民のまちづくりへの参加」を目的としているため、「地域集団に作用する」ということが必要である。また、住民が熱意を持ち、自ら創意工夫を行う活動を持続させるには「マーケット」があった方が良いと考える。

合わせて掲載している図について説明すると、個人的な好みや興味については「個人が享受」という上の方に位置し、下の方に行けば行くほど地域集団に最遅の好きな言葉もっとコミュニティを作っていくきっかけになっていくというような軸になる。右の方の「マーケットがない」というものは、本当にニッチなファンや個人的な思考によるものなど、あるいは地域の方々で毎年開催するような行事的なものになっている。「マーケットがある」というのは、映画やアニメ、フェアのようにそのまま事業のような形で市場が成立し始めているところである。観光資源ということまでにはならないが、地域に作用するという意味でのマル印で「芸術祭」と記載した位置づけになると考えており、なぜ芸術祭なのかという意味では、マーケットを持たせて地域集団に作用するというコンテンツとしてはフィットするのではないか、という背景から生まれた考えである。

６ページ目について、一つ芸術を手段として対話の場所を作りましょうというコンセプトで、仮のタイトルであるが「かるいざわ ざわざわ ２０２３」という形でコンセプトを作った。これは仮とは言えこだわりがあり、敢えて「芸術祭」というタイトルをつけたくないというＰＴとしての気持ちがある。なぜ芸術祭なのかということよりも、「ざわざわってなんだろう」という建設的な議論や対話を生んでいくような場所にしたいという思いから、形を固定するような言葉をつけたくないというふうに思ったのがこのタイトルの意味するところである。

次に謳っているのが「住民の住民による住民のための芸術祭」であることである。みんなが自分事として楽しんで自発的な形で参加をしていくような形、軽井沢の未来をつくる一員に自らなっていくような形を想定している。出来上がったものを持ってきて鑑賞するような、作家や作品の誘致という形ではなく、プロ

セスに居合わせることでイメージ・想像が自由となって、他者との価値観の交換というような対話に繋がっていくというイメージである。芸術祭というと実行委員会のような組織があって、有名な作家さんの作品を誘致してきて、期間限定で展示する方法もあるが、今回はそうではなくてここで創造プロセスが起こることをイメージしている。

【Ａ委員】（ファシリテーター）
　名称とコンセプトということであったが、ＰＴでの検討をお願いしていたものの中に「予算をどうするのか」ということがあったと思うが、ご説明願えるか。

【Ｂ委員】（ＰＴ座長）
　ＨＰやフライヤー、チラシ、ポスター、ロゴ、（協力いただける会場等に掲示する）サインの統一などに関連して、デザイナーや制作を依頼したいと考えているが、町外ではなく町在住の方にお願いするなどして町に関係する方々とつくる芸術祭にしたいと思う。ある程度想定される方はいるが、みなさんからもご推薦いただける方がいればぜひ紹介いただきたい。そういった方々へ業務を委託する予算と、風土フォーラムとしてのオリジナル企画を１つ設けたいと考えている。風土フォーラムがなぜ芸術祭を行うのかということもわかるようなものを製作しようと考えているが、そこにかける予算も想定している。

【Ａ委員】（ファシリテーター）
　前回会議の際の話では、町の予算の中でやっていってそれにプラスしてスポンサーをつける、ということになっていたと思うが、芸術祭に合致しないのではないかとの考えもあり、予算の確保の仕方に変化があると思う。そのあたりについてもご説明いただきたい。

【Ｂ委員】（ＰＴ座長）
　町に予算をお願いするよりは、１つの独立した団体として県の補助金の活用も視野に入れながら、ある程度大きい予算規模で実施できればと考えている。その予算のなかで、今申し上げたような内容のことを実施したいと考えている。

【Ａ委員】（ファシリテーター）
　基本会議に予算をつけてもらうということではなく、ＰＴが住民団体として補助金を申請してスポンサリングを受ける、という一住民団体としてやっていこうという考えで間違いないか。

【Ｂ委員】（ＰＴ座長）
　その通りである。継続してやりたいということと、仲間が集まったところで後々に組織化ということに繋がるのではないかということを見据えてのことである。

【Ａ委員】（ファシリテーター）
　座長から報告があった。みなさんから意見がある方がいれば伺いたい。

【会長】
　非常にワクワクする楽しみな企画であると思う。なぜ風土フォーラム基本会議が芸術祭を実施するのか、という意図や紺瀬プロが伝わるようにすることが１つ大事なことである。また、今までの会議内でも話があったが、ＰＴ名称に「芸術による新たな軽井沢ブランドを創造するプロジェクトチーム」ということで「創造」という文言が出てきている。今までの基本会議内容では「新たなものの創造」というよりも「今まであったものを守っていく、発展させていく」というニュアンスがあったと思う。名称については、仮称であり変更がきくものと思うが、名称についても意見があれば伺いたい。
　改めて整理したいのだが、ＰＴの役割として、芸術祭については専門性が出てくるものであるし、補助金等の申請の兼ね合いもあるので企画運営の全般をＰＴへ委ねたいと考えている。そのあたりも含めみなさまからご意見伺いたい。

【Ｃ委員】
　２点ある。本日の議題は２つあるが、１点目の質問としては、１つ目の議題であるＰＴの活動に関してと、２つ目の議題の今期のテーマについて、それぞれの

関係性を明確にして議論するべきだと思うので関係性を確認したい。

２つ目の質問としては、住民参加型会議を予定されていると思うが、いただいた資料で体制図を拝見すると、その中に住民参加型会議の位置づけについて記載がある。具体的なことは今から詰めていくと思うが、この住民参加型というのは、住民の意見を聞いて取り上げるのか、それとも住民に「ざわーず」の中へ入っていただくのか、という住民参加というものの位置づけを明確にするべきと考える。私自身それらを明確に理解しておきたい。

【Ａ委員】（ファシリテーター）

ご意見いただいたが、１点目については会長から話があったが、ＰＴと基本会議との役割分担というイメージになるかと思うのだが、その説明でよろしいか。

【Ｃ委員】

役割というより、風土フォーラムの今期のテーマを話し合う中で芸術祭ということがでてきているわけで、そこへ住民が参加する場合に、参加されるみなさんに芸術祭に至っている流れや関わる組織体制等について十分に理解してもらうことが重要だと思う。しっかりと整理をして、出来るだけシンプルにできると良い。役割というより、関係性やなぜ芸術祭なのか、といったところを明確にしたい、ということである。

【Ａ委員】（ファシリテーター）

関係性について、企画運営はＰＴに任せることになるとの説明が会長からあった。仮称であるが「ざわーず」のみなさん、住民のみなさんとの接点づくりなどについて、基本会議の中ではできないので、ＰＴのみなさんにやっていただいた方がよいと思う。かといってＰＴだけで進めていくような形で基本会議と切り離されてしまうと、それも違うと思うので、資料で「企画と実施」というまとめられ方をしている。主催（発意）は基本会議になるが、実働はＰＴということになるかと思う。基本会議は（ＰＴの実施内容について）監査というかアドバイス的に意見を述べていくのが良いのではないかというところことであったのだが、そのような捉え方でどうか。

【Ｄ委員】

企画内容について特段の意見はないのだが、組織体制の作り方について配慮が必要かと思う。そもそもＰＴが主体で実施することは難しい。事務局として機能するための最低限必要なものとして、予算決定する財務に関する規則や意思決定をどのようにするかという規定がなければいけない。風土フォーラムとの関係性をどうするか、などである。問題提起の趣旨としては、実行委員会がやるのでもよいが、組織づくりをリーガルにやらないと補助金などの事務処理が複雑になる。報告書の作成も求められるし、「住民主体で」など中途半端なことを言っていると、「住民主体とはなにか」という問題も出てくる。この補助金の性質からして、企画内容を聞いている限りでは馴染まない予算なのではないかという気もしている。町が関わらないと実施できないのであれば、町側の判断も必要になるはずであるし、組織づくりについては詳細に検討し、意思決定と予算管理のできる組織を作らなければならない。その観点があっての考えなのかどうなのか。

【事務局】

風土フォーラム基本会議は、町長が委員へ委嘱している町の機関である。県の補助金に関しては、風土フォーラムで、もしくはＰＴで申請しても対応はできるものと判断している。

【Ｄ委員】

申請主体が町の諮問機関である町の機関から申請して、町と一緒にやるということか。

【事務局】

県の補助金は地方公共団体から申請することもできる。

【Ｂ委員】（ＰＴ座長）

ＰＴ自体は、ＰＴが基本会議から離れてやっているつもりはなく、主催（発意）

はあくまで風土フォーラムだと考えている。手を動かす頭を動かすということについて、みなさんが出来ることで運営をしていきたいと考えている。

【Ｄ委員】
何が主体かどうかを整理すべきという議論である。中心に動くメンバーが誰であるかという問題ではなく、予算の執行管理が出来る組織なのかどうかということを考えれば、主催となるのは町しかいないのではないかと思う。事務局的には風土フォーラム主催で管理できるという理解でよいか。

【事務局】
実行委員会に拘らず、ＰＴもしくは風土フォーラムが運営主体、実行の主体で、町が主催となる必要はないという判断である。組織づくりの考え方による。

【Ｅ委員】（ＰＴ副座長）
前にもこの議論があったが、お金の出し入れや寄附などがあるので、【Ｄ委員】に知恵を拝借したいと思っている。こういった組織は公平性や公共性が問われるものなので、どういう組織づくりにすれば良いのかということについて、ぜひアドバイスをいただきたい。

【Ｄ委員】
芸術祭の枠組みや内容自体は反対ではない。運営のオペレーション上の細かな話である。何とかできるように事務局と相談しながらやりたいと思う。

【Ａ委員】（ファシリテーター）
鋭い視点のご意見であると思う。ＰＴと別で実行委員会を立てるという説明があったと思うが、それがないということで報告いただいているので、組織体についての話になったのかと思う。これについては【Ｄ委員】と【Ｂ委員】（ＰＴ座長）および事務局にて話を詰めていただくということでよろしいか。

【Ｄ委員】

協賛金等の享受主体になれるかどうかという点と、住民主体ではあるが協働で実施することが出来れば良いと思う。

【Ａ委員】（ファシリテーター）
その他あるか。

【Ｂ委員】（ＰＴ座長）
補足であるが、住民会議ということで 12 月 19 日に開催を予定しているが、それまでに資料もブラッシュアップしたい。今、みなさまからご指摘いただいたような、なぜ芸術祭なのか、風土フォーラムは何をしているのか、どういう組織体なのか、などを誤解のないように伝えられる資料にしたいということである。今提示している資料は、この２時間ぐらいで事務局とブラッシュアップしたものなので、みなさんの知恵を借りながら作っていきたい。
また、「実行委員会」という名前のほうがということであればそうであるが、「委員」とついただけで、どうやって選ばれたのか、委員会はなんなのか、という意識が生まれてしまうので、そのような意識を持たないで欲しいという考えもある。みなさんと同じ住民の１人であるという見え方にしたい。運営体制の見えやすい言い方、見せ方などの案があれば、ぜひご意見を頂きたい。

【Ｅ委員】（ＰＴ副座長）
補足であるが、ＰＴメンバーは芸術の観点からのコンテンツの作り込みに関して頑張って進めているが、組織づくりに長けているわけではない。経験のある方に補っていただきたい。【Ｃ委員】がおっしゃった軽井沢ブランドについて、軽井沢には既にいろんな売りがあるので、それらのつながりを持たせるものが今までなかったわけである。いろんな魅力やブランドと呼べるものにつながりを持たせられるものとしての芸術祭になればと考えている。体制づくり、公平性などについてアドバイスを頂きながら進めたいと思っている。

【Ｂ委員】（ＰＴ座長）
同じ公募仲間として、【Ｆ委員】や【Ｇ委員】にも、ジャーナリストや広報分

野の観点から、ぜひお手伝いいただけると嬉しい。

【Ｆ委員】
　ジャーナリストと言っても、行政に対して意見するようなケースが多く、ＰＲ的なことはやったことないので果たしてどこまで出来るかわからないが、芸術祭を多くの方に知って貰い、参加してもらいたいと考えているので、ぜひ協力したいし、協力は当然だと思っている。

【Ｇ委員】
　企画内容には共感するところが多いので、微力ながら楽しく参加させていただきたい。具体的に何をやったら良いのかというのが、どんどん具体的にしていかないとすごく勿体ないとも思う。組織や委員会の仕組みについてはよくわからないが、記事やＰＲについて手足を動かすことについてはやる気も経験もあるので、ぜひよろしくお願いしたい。

【会長】
　役割について再確認したいが、県の補助金などの関係がクリアされれば、ＰＴへ一任させていただくということで良いか。反対意見はないか。

【Ｄ委員】
　そこがまさに組織づくり、意思決定をどうするかという問題になるところなので、「一任」という言葉はどういった意味か。予算管理まで含めてＰＴで出来るのであれば「一任」で良いのだが、あくまで別の組織体でやらなければいけないことを、ＰＴに一任するというのは、組織づくりの有りようによっては全く流れが変わるので、体制が決まるまで「一任」という言葉で判断するのは難しいかと思う。

【Ｂ委員】（ＰＴ座長）
　私も【会長】がどのような意味合いで「一任」という言葉を使用しているかが気になる。どういう意味合いでの「一任」であるか、ご説明いただいても良いか。

【会長】

風土フォーラムが主催となっているが、ＰＴが基本的な企画に動いてもらっているため、ある程度役割を決めておかないと宙ぶらりんになってしまうと思う。これから決めなければいけないこともたくさん出てくる中で、役割を整理しておかないと、どっちの役割なのかという事柄が出てきてしまうので、ＰＴにお任せしたいという主旨での発言である。やはり、基本会議で細かいことまで決めながら進めることが現実的に難しいので、それらをお願いしたいという意味である。

【Ｈ委員】

風土フォーラム自体は町長からの委嘱とはいえ責任と権限がない。基本会議があって、その下に各ＰＴがあるということで今までやっていた。あくまでも基本会議の下の委員会ということで、活動報告は必ず基本会議へ上げる。一任ということは一切あり得ない。あくまでも一委員会ということであり、上位に基本会議が必ずいる。基本会議でその報告を受けてどうするかということで町に協議をして判断する。

【Ｄ委員】

委員会制度のそもそもが、本来、町が行う意思決定を委託して出来ている組織である。それをさらにＰＴにおろして動かす、そこで企画・提案されたものを受けて委員会で意思決定し、それをさらに町が最終決定するという形になっているので、そもそも何も決まっていない中で委員会に「一任する」というのは、責任の所在が不明となる。「一任」の意味として、「企画・提案をしてください」ということで、風土フォーラム自体はそれを尊重します、というスタンスであれば理解できる。本来の「一任」という言葉の意味からすると、法律の専門の立場からすると違和感がある。

【会長】

発言趣旨としては、今【Ｄ委員】から最後に説明された意味のとおりであった。

うまく表現できず、理解の混乱を招き申し訳なかった。

【Ｂ委員】
　その意味合いでの「一任」ということが理解できて安心した。

【Ａ委員】（ファシリテーター）
　その他、何かご意見あるか。

【Ｆ委員】
　基本的な質問で申し訳ないのだが、県の補助金はこの先も制度として継続されるのか。県として予算面から今後も確保されるようになっているのか。

【事務局】
　県からは継続予定と提示されているが、あくまでも予算が承認されればということが前提である。予算がつけば実現するし、もしそうでなければ協賛金で集まってくるお金の中で運営できればとＰＴ内で検討されている。

【Ｆ委員】
　協賛金とは、どこからのお金を想定しているのか。

【Ｂ委員】（ＰＴ座長）
　まだ雲の上の段階の話であるが、今回の企画では場所も、開催する人も、それぞれの団体が実施する事業やワークショップを開催する、といった個別で行われる事業に対して、我々がマップやパンフレットに内容を落とし込んで展開していくという形を想定している。なので、多額の予算を集めて自分たちが主体となる企画を何本も打つということではない。なぜこのような芸術祭を開催するのか、そういった意義みたいな企画を自分たちで表現していくつもりだが、それは自体は最低限の予算で出来る範囲で考えている。参加していただく各事業者に、いつ、どこで、どういうことをやる、といったものを、我々が作成するマッピングの中で紹介して宣伝できればと思う。また、立ち上げの宣伝と企画に参加

してもらえる方を募集する目的という意味で、第１回目の企画として住民会議を開催する流れとしている。

【Ｆ委員】
町からも、別に予算が出てくるものと考えてよいのか。

【Ｂ委員】
町から出てくるものとしては、ＰＴを動かすための予算のみだと聞いている。

【事務局】
前回の会議では結論として、町の予算を前提とするのではなく、補助金や協賛金を検討しつつ、将来的には実行委員会という独立した形を見据えた行政に依存しない体制を取っていく、ということであったと思う。そのあたりを説明すると良いのではないか。

【Ａ委員】（ファシリテーター）
先ほどの【Ｂ委員】（ＰＴ座長）からの説明に住民参加型会議の話が出てきたが、【Ｃ委員】から確認のあった住民参加型の「位置づけ」についてはいかがか。

【Ｂ委員】（ＰＴ座長）
どういった内容にするかＰＴ内で詰めなければいけないと思っているが、基本会議委員や各エリアデザイン会議のメンバーにもぜひ入っていただきたいと考えている。風土フォーラムの関係者にはぜひ自分事として入っていただきたい。それと共に住民の方々が来ていただいた場合に、【Ｆ委員】からもあったように、協賛金を得られるような、自主事業として芸術祭に参加したい、あるいはアーティストとして芸術祭に参加したいという方をどれだけ巻き込んでいけるか、という視点で住民参加型会議を捉えている。

【Ａ委員】（ファシリテーター）
【Ｃ委員】、今の説明を質問の答えとしてよろしいか。

【Ｃ委員】

住民参加型の会議というと、例えば企画や運営方法、内容についての参加なのか、それとも芸術祭そのものへのプレイヤーとしての参加ということなのか、それら全て角度からの参加と捉えれば良いのか。イメージを共有しておきたい。それもこれから議論していくところであるか。

【Ｂ委員】

まったく決まっていない。ぼんやりこのようにしたいということはあるが、まだ決定事項がない。住民参加型の主旨としては芸術祭の企画が共有され、そのようなイベントが行われるということやそこにかけている風土フォーラムとしての思いを認識してもらうことが前提で、「では１年後に自分がイベントにどのようにかかわっていって、次に向けてどのように動いていくか」ということをワークショップの中で描けるような仕掛けをしたいと考えている。

【Ｃ委員】

開催が 12 月中旬であるので、基本会議なりＰＴなりで、この会議がどのようなもので、どうすれば参加できるのかなど参加者へ向けた案内について示せていった方が、イメージが作りやすいのかなと思う。

【Ｂ委員】（ＰＴ座長）

その点、広報に載せる原稿もこの場でみなさんに共有した方が良い気がするが、事務局いかがか。

≪事務局より広報誌への掲載を予定している記事を画面に共有≫

【Ｂ委員】（ＰＴ座長）

12 月 1 日に掲載予定の内容である。仮称となっているが、風土フォーラムがこうしたイベントを行おうとしているという告知とともに、対話の場を開催したい、としている。芸術祭を行うためのワークショップを開催するという程度の

内容である。１時間半をどのように使うかということについてはＰＴの中で詰めている最中である。最終的に（芸術祭を開催する）来年 11 月ごろに「自分はどのように参加するか」ということを持ち帰ってもらい、一緒に活動できる間口を開けておく場所と考えている。

【Ｅ委員】（ＰＴ副座長）

ＰＴで話をしていたのは葉山芸術祭のイメージで、「主催企画」「協力企画」「参加企画」という何個かのユニットに分かれている。メンバーで考えた企画を主宰するのが主催企画、協力企画とは美術館など期間中に芸術祭をネタにイベントを打つこと、参加企画というのは期間中に芸術祭とリンクしたイベントを同時開催すること、これら全体を指して芸術祭とするという形である。企画・運営側として参加したいという人もいれば、自身の事業なり活動をこの場で発表することができないかというような方もいると思うので、そうした声に対して我々から「ではこのような形で参加いただけますか」とお願いするような場として考えている。

【Ａ委員】（ファシリテーター）

会長からも意見が出されていたが、ＰＴの名前が誤解を与えそうだと個人的には思う。「芸術により新たなブランドを創造する」とあるが、ＰＴの中ではいろんなものを結びつけることで新たなものをというイメージかと思うが、何も知らない方がみると、芸術祭という新たな（ブランドとしての）カテゴリーのなにかを作り出すのでは、という誤解が生まれてしまう可能性があると思う。そうなると勿体ない。芸術による軽井沢ブランドの対話を促すＰＴ、など変更していただいても良いのかなと思う。

【Ｂ委員】（ＰＴ座長）

ご意見をいただいたので、いくつか候補を作り、みなさんにも意見を貰いながら工夫したいと思う。

【Ｄ委員】

名称も組織づくりに関わるので、その内容に合わせて組織づくりを行えると良い。タイミングの問題もあり町の予算が取れないという状況からスタートしているが、イニシャルサポートは行政でなければできない部分である。県の補助金の趣旨にもあてはまるはずなので良いと思うが、行政に頼らないという主旨には当てはまらない。最終的に協賛金を得て進めるためにイニシャルサポートが必要になるので補助金を活用するということであれば良い。そうした認識のもとに進めないとおかしな方向に動いてしまうので、そのあたり運営上、危惧するところである。組織体制と合わせて、予算、会計、財源をどうしていくのかということもしっかり考えながら動かなければいけない。

【Ｂ委員】（ＰＴ座長）

【Ｄ委員】のおっしゃることは自身も経験があるので本当に良くわかる。今回は一時的にイニシャルコストをなんとか確保してスタートを切りたいと思っている。補助金がなければ続けられないということにならないようにしたいと考えている。そのためにみなさんの知恵も借りたいと考えている。

≪事務局より葉山芸術祭に関する資料を画面共有≫

【事務局】

今日の報告段階ではまだ具体的なところが決まり切っていないし、みなさんに聞いてから決めたいというＰＴメンバーの意向もあったと思う。もう少し具体的にしないと伝わらないという指摘はもっともである。

ＰＴとしてやりたいことを簡単に伝えると、文化展など作品が並べられている空間、その空間を彩ることをやりたいというイメージである。このイメージを先に伝えて、予算については、来月の住民参加型会議を経た上で実際に組み立てたところで、その内容を基本会議で揉むという流れでないと、委員のみなさんの具体的な理解に繋がらないのではないかと思う。

ここまでの話を整理するが、ＰＴとして何をしたいのかを今回基本会議のみなさんにご理解いただきたかったというのが今回の報告主旨であり、企画に関しては「一任」という言葉の意味の誤解こそあったが、企画内容の検討に関して

はＰＴで進めていくということを確認したかったというのが本日 1 つ目の議事である。

【Ｂ委員】（ＰＴ座長）

今おっしゃったような、例えば中央公民館でやっていた文化展のようなものをどう彩るかということもアイディアの一つではあるが、予算については既に私の中で具体的な数字を想定しているところである。

企画内容については、例えば廃材アートとはこういうものだ、というのをどこかに飾っていくことによって意識化するという方法もあると思う。また事業としてのやり方はいろいろあり、Ｗｅｂ制作や宣伝に使う外注費用を最低限の数字として補助金で賄えるような事業内容で申請することを検討している。どちらかというと企画に関しては手や頭を動かせる人、任せられる人によって金額は変わるし、お金という意味ではないスポンサー、協力者、支援者などを参加者として増やせるかというところが重要だと考えている。予算については、Ｗｅｂ制作やチラシなどの広報・広告周りや開催される各所でのサインやロゴなどについて、いかに統一感を出していけるかというところが一番大事な予算の使い道だと思っている。

【Ａ委員】（ファシリテーター）

団体の在り方は有識者のみなさんでまとめていただくこととし、ＰＴ名称についてはいかがか。（広報掲載仮称の）「新たなブランドを創造する」という方が良いのではないかという見方もあると思うが、名称を変更する方向となっている中で何かご意見あるか。もしなければ、今の案を引き継ぐ形と、新たに違う名称にする形といずれか座長にて方向性を決めていただき改めて提案いただくという形で良いかと思う。組織規定については【Ｄ委員】からご意見いただければと思う。

【Ｄ委員】

風土フォーラム自体が「軽井沢町まちづくり基本条例」という条例に基づいて設置されていて、基本的には町長への提言について取りまとめる機関として位

置づけられている。予算の執行も含めて、基本的には町長の諮問機関になっているので、町が主体という位置付けにならざるを得ない関係にあるし、町の考え方にもよると思う。町から独立して運営していくということであれば、別の法人か何かを作らないと難しいのではないかと考える。みなさんのやりたいことの方向性もわかったので、それを踏まえて、うまくできる形を考えながら進めたいと思う。

【副会長】
念のため１点確認したいのだが、芸術祭の中において基本会議が主体となって取り組む企画の内容については、芸術祭のコンセプトを象徴するような企画ということであるが、その内容については基本会議内にて考えるのか、それともそれもＰＴに担ってもらう形なのか、どちらなのかハッキリしていないがいかがか。

【事務局】
企画内容についてはＰＴへ一任ということになったかと思う。

【Ｂ委員】（ＰＴ座長）
認識を合わせておきたいのだが、企画内容についてはＰＴ内にて企画書のような形でまとめたうえで、基本会議のみなさまへも意見を伺うスタンスを基本としている。主催はあくまで風土フォーラムであるという認識である。企画内容をはじめ、参画していただく方へのお声がけの方向性や芸術祭全体の組み立てなどについても、ＰＴで議論してまとめたものを基本会議のみなさまにも提示していこうと考えている。その認識で問題ないか。

≪一同、異論なし≫

⑵軽井沢ブランドの持続と進化について

【Ａ委員】（ファシリテーター）
　ＰＴが立ち上がったことで無関心層に働きかけるというアウトプットが出来たともいえる。住民から上がってきたものについて話し合いたいという意向が会長から示された。それについて会長から説明願いたい。

【会長】
　軽井沢ブランドについて、これまでの会議でも委員のみなさまから様々な意見を頂戴しているが、軽井沢ブランドといっても幅が広く、すべてを網羅するのは難しい。もともと基本会議は町民から寄せられた意見について話し合う場だと思うので、一度原点に立ち返り、町民のみなさまの関心の高いものをテーマとして取り上げられればと思っている。過去に風土フォーラムへ寄せられた意見や、開催されたワークショップなどの内容にフォーカスすると、住民のみなさまは自然環境について非常に関心が高いものと思われる。自然環境は軽井沢ブランドにも直結して切り離すことはできない課題だと思うのでぜひ取り上げたい。一方で自然環境と言っても口を出すことが難しい内容もあると思う。そこで例えば、住民一人一人が行えることを発信して、共通認識として持つことで環境保全を進めることができるかなと思う。個人で出来る緑の増やし方など、そうした自然環境に対する学びの場を持つことができればと考えている。そこで、みなさまには、お勧めのゲストスピーカーやこういったやり方なら良いではないかというようなご意見を伺いたい。

【Ａ委員】（ファシリテーター）
　今の話は、基本会議そのものに何かの立場として誰かを呼んできてということではなく、一般向けにお話いただく方という認識で良いか。

【会長】
　そうである。“公開基本会議”のような形で行えれば良いと考えている。

【Ｄ委員】
　そもそも守るべき自然は何かということへの理解を深めることが非常に重要

である。我々の研究所には森の専門家もいるが、今の軽井沢の森はこの 100 年で形成されたものがほとんどで、いわゆる原生林のような昔からあるものは少なく人工的に作られたものである。森と言っても人々が取捨選択した森が自然環境にとっては悪いこともある。土地に合わない木を植えたがゆえに細い木が育ってしまい、それを保護することで台風が来るたびに折れて停電が起こるみたいな事態が起こっていて、まさにそれは人災と言える。守るべき自然が何かという考え方を共有するところから始めるのがスタートだと思う。木を切ってはいけないというだけではなく、切るべき木もある。そのあたりの理解を深めることのできる専門家もいるし、そのあたりをきちんと理解したうえで今の自然環境をどのように守るべきか、ということも話されるべきである。森の専門家、自然環境の専門家など、大学からも専門家を呼ぶことはできる。

【Ａ委員】（ファシリテーター）

会長から提案された議題というのは、基本会議の根幹をなすものだと思うのでぜひ一人一人に話を伺いたい。

【Ｃ委員】

３期で「未来宣言」を出したが、その中で自然についても問題意識として触れた。具体的に何をするのかというのはこれからの議論かと思う。自然を守るということもあるが、開発と自然保護といった、相対する利害関係が非常に難しい。そういったものを風土フォーラムとして踏み込むべきものかどうかわからない。風土フォーラムの形を考えれば住民主体ということであるので、自然環境に対する危機感や大きな問題として捉えることは良いが、具体的に「いかにして景観や自然を守るのか」といったことについては、難しい問題でありどういうふうに取り上げるべきかということが課題だと思う。

【Ｂ委員】

２つ話そうと思う。１つは、今、ＦＭ軽井沢で高校生が自然をテーマに自分の言葉で曲を紹介するという企画が行われている。こういうところが好きというシンプルなものもあれば、あるがままに生きるのが自然であるという哲学的な

ことを言う方もいる。こういった企画は好きだなぁ、と個人的には思っている。また、もうひとつとしては私の周りにも循環型の生活の専門家や、森を維持するための専門家がいる。昔育てていた植物を軽井沢で育てている人などもいる。いつも思うのはそれぞれの哲学や理念などが大事で、（まっすぐなので）どれか１つを誰かが紹介するというのは非常に難しいことだと思う。あれも良い、これも良い、だけどこれは合わない、といったことが起こりえるのが、自然を守るというテーマだと思う。そこで、風土フォーラムとして何が出来るのかを考えてみたが、まずは知ることであると考える。例えば、異なる方法論を持っている人を３人ぐらい紹介するというのが良いのではないかと思う。

【Ｅ委員】

話の趣旨と少しずれてしまうが、よくある議論は木を切るべきなのか切らざるべきなのかというテーマである。時と場合によって切るべきか切らざるべきかが変わるわけで、どういう考えで行うか、その考え方が大事である。伝統でも同じ問題を抱えているが、残すべきものは残し、変えるべきものは切ってもう一度再生させるということは、木の伐採においても同じである。どちらか、という凝り固まった考え方ではなく、もっと本質的なことを考えられる場所を提供するのが風土フォーラムの役割かと思っている。結論を我々が示すというよりも、考える土台となる素材を公平に提供し、考える場を提供するのが我々の役割であり、そういった場にはぜひ私も参加したいと思っている。

【Ｆ委員】

守るべき自然はどうだということをある程度風土フォーラムとして提示して、それについて議論するのが良いと思う。個人的には生態系について話してくれる先生が良いと思う。生態系の重要性と軽井沢の生態系で守るべきものは何なのかというところをお話していただける方を呼んでもらいたいと思う。先ほど【会長】がおっしゃったが個人が出来ることを示したいということであるが、私は大学の海洋プラスチック研究の広報担当を２年やっていたことがあるのだが、その時にも、「個人がやるべきことは何だ」という議論になっていた。しかし、「行政のやるべきことは何だ」「メーカーのやるべきことは何だ」といった方向

の議論にはなかなか向かない現状があった。そうしたことは避けてもらいたいので、「行政ができること」「メーカーができること」といった形で、軽井沢であれば「不動産会社や建設会社ができることは何であるか」ということも考えていけるような流れになれば良いと思っている。「行政ができることは何か」「事業者に出来ることはなんだ」という議論にしていきたいと思う。

【Ｇ委員】

定義をすることが難しいテーマであるが、木を切る＝自然破壊と考える方も多いが、自然環境を守るために伐採しているケースも少なくない。自然環境というテーマの中では、悪いと言われているものであっても意味のあることだったり、良いと言われているけれど環境に影響することもあるということもケースとしては多いと思っている。それが軽井沢の場合で、何が起きていて何をするべきなのかということが知りたいと思う。地球規模や日本規模の話にもつながるとは思うが、特に軽井沢の自然環境や歴史に対しての事情をピンポイントで知る機会が欲しいと個人的には思っている。そういう機会が住民の方へ向けて増やせたら良いと思う。

【副会長】

消防団での活動で倒木の処理をする際に、軽井沢の土地に合わない樹種で根が浅いからなのかモミの木が多い。軽井沢のイメージから離れない環境保全の活動を考えていきたい。軽井沢らしさということを考えたときに、環境に関する閣僚会議が開かれたこともあるし、環境意識の高い方も多いと思う。環境のために大金を払えないという方も多いと思う。環境に配慮した取り組みを行っている企業に投資するとか、環境に配慮した製品を選ぶとか、そのようなＥＳＧやエシカル消費などは軽井沢らしいと思う。地球環境に一人一人が意識を持つこと、日々の意識を高めてもらうためのゲストスピーカーが良い。

【Ｈ委員】

自然環境問題は振れ幅が大きい。風土フォーラムでも第１期から第３期までの間に「自然環境を取り上げる」という議論はあったが、結果的には取り上げて

いない。なぜならリスクがあるからである。明治時代にＡ．Ｃ．ショーが軽井沢に来て良い環境だと思ってベースを作ったわけだが、あの当時、軽井沢には木もなく荒地だったわけである。当時のスコットランドも荒地で、日本はどこでも緑があったのだが、軽井沢には珍しく荒地があったということでＡ．Ｃ.ショーは故郷のスコットランドと似ていることから軽井沢を見出したと言われている。その当時の写真も残っている。例えばＡ．Ｃ.ショーのように昔の環境が良いという人もいるだろうし、その後、雨宮敬次郎が植栽して、モミの木・カラマツで今の緑あふれる軽井沢になるというわけであるが、それが良いという人もいる。これはどっちも良いと思う。今から 10 年以上前に来た台風で旧軽井沢を中心に倒木の為にライフラインや道路が遮断されたり、亡くなった方もいらした。モミの木が大きくなればなるほどそうしたリスクも高くなるわけである。例えばそうしたこともあるので、あまり自然環境の分野を、深掘りするとどちら側のスタンスに立つかで全く話が変わってきてしまう。

なので、自然環境を取り上げるということは、【会長】のおっしゃったような「住民のみなさんが自然環境に関心のある人が多いからテーマとして取り上げたらどうだ」「誰かゲストスピーカーいませんか」という単純な話ではなく、（風土フォーラム基本会議が）どちら側のスタンスに立つかによって全く話が違ってくるということになる。個人的には、信州大学のように学術的なところで、より客観的な立場で、論理的・学術的に語れる方が良いと思っている。しかしながら、個人的に自然環境というテーマはあまりにもブレ幅の大きいテーマであり、22 世紀風土フォーラムとして取り上げるのはリスクがあると感じている。言うまでもないが、誰もが環境破壊が嬉しいですという人はいないわけで、「自然は守りたい」という気持ちはあっても、ブレ幅が大きいというポイントをきちんと抑えておかなければいけないということである。

このあたりに非常に難しい問題を秘めているところなので、個人的には、22 世紀風土フォーラムとしては取り上げるべきではないというのが意見である。

【Ａ委員】（ファシリテーター）

いろいろな意見が出たが、会長としてはいかがか。

【会長】

自然環境というテーマを取り上げるリスクは承知しているが、だからこそ取り上げるべきだと考えている。スタンスを事前に決める必要はないと考えている。学びたい方がたくさんいるということは事実かと思うので、その学びの場を提供するということが風土フォーラムの一つの存在意義にも繋がると思う。

【H委員】

議論ではなく学びということであれば大いに大事であると思う。いろんな識者を呼んで、環境について学ぶフォーラムを開催して意識を高めることは大事である。しかし、そこで議論が始まってしまうと間違いなく収拾がつかなくなってしまう。なので、あくまでも学びに徹するということであれば、私も賛成である。

【D委員】

何かの結論を出すということではなく、理解を深めるという活動こそすごく重要である。何かの最終的な意思決定というと、それはもちろん住民であるが、その前に理解を深めることがすごく重要であり、多様な意見があるのもまた本当にその通りである。多様な意見の基礎となるのは情報共有であり、それが重要なことである。例えば、「昔は軽井沢には木がなかった」ということもすごく重要な事実であるし、学術やデータサイエンスからすると、「その土地に合った自然」というものがある。自然の豊かさを求めて「こういう景色が良い」「モミの木が良い」というのは人間のエゴである。なので、人間が行う自然の選択も、「モミの木がここにあるべきかどうか」ではなくて、前提として「ここはモミの木が生えないところに生やしているのだ」ということを理解した上で、「この木を切って良いのか、いけないのか」という判断材料をみんなで共有していくというのはすごく重要なことだと思う。我々から意思決定や提案などするつもりは全くなく、そういった情報提供・情報共有ということであれば、いくらでも協力できます、という趣旨での発言だということを補足しておく。

【会長】

今後のスケジュールだが、本日が４回目の基本会議なので、今年度は残り２回ということになる。残りの２回の会議で、住民の皆様を呼んだ公開基本会議について、詳細を再度話し合いたい。次回の会議は１月の下旬でどうかと考えていて、それを経て、３月中旬から下旬で実際にゲストスピーカーを呼んで、住民の方を呼んだ形での基本会議を開催できればと考えている。ゲストスピーカーを誰にしたら良いかなどの具体的な提案は、Ｓｌａｃｋ上でやりとりできれば良いと思う。Ｂ委員からもあったとおり、いろんな視点からのゲストスピーカーを呼ぶのも面白いフォーラムになると思う。そうした観点から、皆様からも推薦できる方を上げていただければと思う。

【Ａ委員】（ファシリテーター）
議論の場を設けるというより、３月に学びの場を設けるという方向性で皆様よろしいか。

【Ｆ委員】
学びは大いに結構であるが、議論でなくともせめて「対話」はしていただきたいと思うがいかがか。

【会長】
個人的には何も前提知識がない上で対話をするのは難しいと思うので、３月に学びの場を設けた上で、来年度の活動の中で対話の場を設けるというのも一つの方法だと思う。

【Ｂ委員】
３月の学びの場は、どこかに会場を設けて対面での開催なのか、あるいはオンラインなのか、規模や定員などはどれくらいを想定しているか。

【会長】
今のところのイメージでは、中央公民館の大講堂にて対面式での開催を想定している。50 人くらい収容可能な施設なのでそれぐらいで想定している。皆様

からも意見を頂戴したい。

【Ｂ委員】
町の施設なので公民館などでという想定ではあるが、希望としてみなさんと一緒に、森の中やどこか屋外でやりたいという気持ちもある。何かに触れたりにおいを感じたりしながら、土を踏みながらということを私達自身でもやりたいと思う。あくまで個人的な思いであるが。

【会長】
講師から話をしてもらうとすれば、音響施設の整った町の施設が良いと思うのだが、来年度の対話の場やフィールドワークについてであれば、そういったことも何か企画できればと考えている。

【Ａ委員】（ファシリテーター）
まずは来年度以降に対話の場を設けるということだが、前提知識が得られないと対話にしていくのは難しいということで、ひとまず３月は学びの場ということで 50 人程度の規模で開催したい、その詳細について１月に基本会議を開催したいということである。これについて、みなさま意見はあるか。

≪特に意見・発言などなし≫

では引き続き１月の基本会議でこの内容を深めていくということでお願いしたい。

【会長】
ファシリテーターとして進行にご協力いただいたが、【Ａ委員】も何かご意見があれば伺いたい。

【Ａ委員】（ファシリテーター）
学びの場の設定ということで異論はない。「みんなで（良い方向へ）動かして

いこう」ということに対して、議論によって住民の間に軋轢を生むのは良くないし望んでいないことと思うので、（対話のための）学びの場をまずは設けるというのは大事であると考える。テーマについては、生態系や自然保護の専門家に加え、もっと根本的な「美しさとは何か」という「美学」など哲学的な学びが得られるようなテーマがあれば、それぞれの考え方や対話にもより深みが出るのではと考えていた。

≪ファシリテーターから議事の終了が伝えられ、会長へ進行が戻される≫

【会長】

次回の基本会議は１月下旬を予定しているので、具体的な日程については事務局も交えて調整をお願いしたい。

３．閉　会